

2021年3月期第1四半期決算説明・通期業績予想説明会における主な質疑応答

NO	質 問	回 答
1	新型コロナウイルス感染症関連で工程の遅れ、計画延期・縮小などの影響はでているか。特に大型案件の状況など業績に与えるインパクトについて教えてほしい。	4月から5月の緊急事態宣言下、現場閉所による手持ち工事の進捗遅れありましたが、第2四半期以降は通常に戻り、大型現場を含め通期を通してほぼ影響が解消される見通しになっております。 しかし、第1四半期における物販や自動車関連など一部業種において計画が延期されたり、リニューアルなどのうち小型の工事の受注が減少しております。それらの影響で第2四半期以降の完成工事高が減少し、通期で前期比7.8%減の1,560億円の完成工事高を見込んでおります。
2	受注動向について教えて欲しい。また、受注採算についてはどのような傾向か。	第1四半期の受注工事高は、前年同期比約125億円減ですが、前年同期に大型案件の受注が集中したことによる反動減、および第1四半期に受注を予定していた案件の第2四半期以降への期すれの影響になります。 しかし、7月以降の足元の受注は順調に推移しており、通期では前期比マイナス91億円、5.4%の減少にとどまる予想です。 受注時に見込まれる利益率については、新型コロナウイルスによる明確な影響は見られません。ただ、今後設備投資計画の見直しがあり、出件数が減少する可能性は否定できません。その場合は同業社間の競争による低採算の受注リスクは想定されます。
3	感染症対策として、どのような業種からの引き合いが増えているのか。感染症対策は医療施設、福祉施設はもとより、商業施設、オフィスへと広がってくるとみられるが、状況を教えてほしい。	現時点までは医療関係からの引き合いが増えており、第1四半期に改修工事を対応させていただきました。福祉施設、オフィスなど、外気量を増大させる改修や新築においても計画の見直しが図られる可能性があると思われれます。
4	第1四半期の工事に遅れが出ても完工粗利率が改善している背景は何か。	第1四半期の利益率の上昇は一過性のものと捉えています。建設工事は一般的に完成時期に利益が積み上がりやすいのですが、今期に繰り越した工事のうち、電子デバイス工場、物流センター、データセンターなどの大型物件が第1四半期に完成し、その精算や原価の見直しにより、利益が大きく改善したことが要因となります。
5	首都圏、大阪等における大型再開発の競争環境について、一年前と比べてどの程度悪化してきているか。	大型再開発案件は今までも厳しい競争の中で受注してきました。現時点での競争環境はさほど変わってきてはいないと感じていますが、今後は全体の市場が縮小すれば競争は激しさが増すと思っております。

NO	質 問	回 答
6	全世界での感染症拡大を背景に、中長期的に御社のビジネスチャンスは広がっていくのか。そのために必要な御社の技術・営業・施工面での変化（従来と異なる点）を教えてください。	医療関係の客先より、リニューアル工事などの新たな需要が生じてくることが期待されます。海外においても、前期にシンガポールにて大型病院の工事も受注しており、開発した医療関連のユニットを含めた営業展開をしていきたいと思っております。国内と海外の技術の一層の連携、移転の準備を進めています。また、新型コロナウイルスにより、社会から空調の重要性を再認識されたと思われま。在席人数が少なくなったオフィスなど、次世代の空調の在り方が求められ、ビジネスチャンスと捉えています。さらにサプライチェーンの見直しによる製造業の国内回帰やDXの進展による電子デバイス関連工場の需要増など、当社が強化してきた産業施設関連の設備投資が高まることも期待されます。
7	再生医療分野の事業について進捗状況、見通しを教えてください。	再生医療に特化した関連会社セラボヘルスケアサービス（株）を4月にスタートさせたところです。こちらでは、細胞を調製するための施設（CPF）のエンジニアリングおよびその周辺機器の販売からスタートしました。2020年度は12億円の受注を目指しています。
8	第一四半期、その他（新築）の受注の前年同期比85億円の減について、大型案件の反動減の分、コロナ影響による延期の分、それぞれはどのぐらいの比率か教えてください。	大型案件の反動減についてですが、前年同期は特に大型案件の2件の受注があり、この反動による影響がほぼ半分を占めています。残りは新型コロナウイルスの影響による小型のリニューアル工事等の出件遅れでの受注減と捉えています。
9	DX銘柄2020に選出され、今後、会社側ではDXにどのような取り組みをお考えでしょうか。	事務、設計、現場の各サイトで構築されていたITシステムを、新たにCIOを任命して、全社として一つに包括すべく推進しています。DX銘柄選定における評価軸は、ガバナンス、組織、ビジネスモデル、ビジョン、戦略があり、この部分で高い評価をいただいた。部分最適から全体最適へ推進しているを評価されたと捉えています。今後は施工現場のデジタル化により、Withコロナ下で現場作業を極力少なくするリモート化、VRやARの活用によるお施主や作業者との情報共有、合意形成の効率化を進めていきます。事務部門においてもテレワークでも100%のパフォーマンスが発揮できるような環境を整備していきます。